



## ☆☆ニュースレター☆☆

第122号  
発行日:2014. 7. 18  
(since 2006.2.1)

このニュースレターはメールを登録している正会員および賛助会員ほか当団体が了承した希望者に、随時配信しております。配信中止を希望のかたは右記までご連絡ください。

NPO 法人・クライネスサービス

会長: 稲垣 正彦

発行責任者: 事務局長・桑原 正明

千葉県佐倉市宮ノ台3-2-2

npo-kleines-463@catv296.ne.jp

TEL/FAX: 043-463-1337

<http://www.catv296.ne.jp/~kleines/>

### ◎「情報交換会」開催

今年2回目の「ユーカリが丘地区自主防犯団体情報交換会」が7月4日(日)志津コミセンで開催されました。初めての交換会は平成17年に6つの団体が出席して開かれましたが、今回は小中学校のPTAも含め17団体\*から38名もの出席を得、活発な意見交換が行われました。

\*佐倉警察署、市防災防犯課、教育委員会、アクションクルー宮ノ台(ACM)、自治会x5(宮ノ台3・4・5、ユーカリが丘1/3/6/7 丁目)、千葉県交通安全推進隊おだけを守る会、青色回転灯装着車防犯パトロール隊(BPC)、ワイ・エム・メンテナンス、PTAx4(青菅小、志津小、井野小、井野中)、クライネスサービス

### ◎移動交番情報

- ・度々スピーカーでも注意が呼びかけられていますが、「振り込め詐欺」は頻発しており、佐倉市では本年6月末で18件、6月単月で2500万円の被害と聞いています。
- ・千葉県の交通事故死は今年に入って82人、全国でもワースト3。運転時や歩道では注意を！「振り込め～」では家族同士連絡を取り合うなどし、くれぐれもご注意ください。

### 会員投寄稿 -32- 「蛇の目」と「桔梗」 (金田 太)

歴史を偲ぶ興味深い貴重な投稿がありましたので、原文のままご紹介します。

表題は何を意味しているかということ、実は加藤清正公の紋所である。清正公といえば「蛇の目」紋というのが一般的な見方であるが、実は「蛇の目」と「桔梗」のあわせ紋が真実のところである。これは熊本城内にある加藤神社(祭神清正公)や本妙寺にある清正公墓所の紋所をみれば一目瞭然である。



加藤神社の宮司の言によれば

「秀吉公の九州征伐後、肥後一国の統治を委任された佐々成政公が地元豪族対応失敗等の失政により秀吉公の怒りをかい

自刃。後継として肥後北部25万石を加藤清正公(隈本城)、南部24万石を小西行長公(宇土古城のち宇土新城)に賜る。当時3000石の一旗本にすぎなかった清正公にそれなりの格式をそなえさせるために、秀吉公は九州征伐

時に戦意不足により放逐した讃岐の尾藤知定公の家臣・武具・調度品をあたえた。尾藤家の家紋「桔梗」に加藤家の家紋「蛇の目」を重ねたのがはじまり。又逆もあつたであろうと思われる。大名加藤清正公の誕生である。これが両家家臣団の融和の元になりさらに佐々家の旧家臣団も抱えて朝鮮征伐の勇戦につながっていくことになる。」とある。

実は金田家の紋も「蛇の目に桔梗」である。先祖代々の屋敷跡が宇土(うと)古城(城址写真=次頁左上)の中腹にある。宇土古城は室町時代から安土桃山時代にかけて菊地一族の宇土氏や名和氏の居城



(以下次頁へ続く)



であった。秀吉公の九州征伐により名和氏は放逐され、一時期清正公が城代として居城した。このあとの経過は前述のとおりである。

清正公と行長公は協力しあって肥後の経営にあたったが朝鮮征伐の役先陣争いの頃から反目する関係となる。最終的には1600年の関が原の役で清正公は東軍、行長公は西軍と敵味方に分かれ、結果は歴史が示すとおりである。清正公は肥後一国54万石の大大

名となり現在の熊本城を築城、名古屋城築城にも参画している。一方、民政面でも河川改修、新田開発等実施して民心を安堵せしめている。現在でも親しみをこめて「セイショコさん」とよばれ崇められている所以である。なお宇土新城は廃城となり一部は現在県立宇土高校となっている。ちなみに天守閣は熊本城に移築され宇土櫓(うとやぐら)として現存している。

清正公は次男忠広公に家督を譲ったあと宇土城跡を隠居所とする予定であった。城代であった頃を偲びたかったのかもしれない。

金田家先祖は隠居所諸準備のために熊本から先のりしたものである。代々医者であったので、そこをかわれたのであろう。しかし清正公の夢は実ることはなかった。1611年急病にて他界している。その後忠広公は改易され肥後54万石は細川忠利公に引き継がれ明治まで続くのである。金田家はそのまま土着し町医者として祖父の代まで続いた。今、兄で19代である。年代的に考えると清正公と金田家初代は同時代に生きた戦友ともいえる主従関係であったといえよう。

因みに金田(カナダ)という姓は三河の田原市周辺に多く尾張出身の清正公と何らかの縁があったと考えてもおかしくはない。加藤神社の宮司に家紋の話をしたら「相当の功績があったのではないか。それに報いるに清正公は一族に準じた待遇の証しとして『蛇の目に桔梗紋』を下賜したのであろう。」

との言であった。因みに熊本市中央区南坪井にある熊本銘菓「朝鮮飴」の老舗園田屋の商品の包装紙にも「蛇の目と桔梗」が印刷されている。御当主にいわれをお聞きしたら「先祖が餅米粉を砂糖と水あめで練った飴を長生飴と称して売っていたところ清正公の目にとまり保存が効き兵糧にいいということで朝鮮征伐に大量に携行、大勝利を得た。以降朝鮮飴と称した。その功績により蛇の目と桔梗の紋を頂戴したといわれている。」との事。因縁を感じる。家系図は何代かまえのお家騒動の時に行方不明になったと伝えられている。いま清正公との関係を示す証しは「蛇の目に桔梗」紋と内容判読不可能であるが辛うじて読める清正公の署名と花押のある文書だけである。(平成26年7月記 かなだ とおる)



(孫から聞いた早口言葉)

一・ かつぱ (谷川俊太郎作)

かつぱかつぱらった

かつぱらうらかつぱらうら

とってちうってた

かつぱなうらかつぱ

かつぱなうらかつぱ

かつぱなうらかつぱ

かつぱなうらかつぱ

二・ うそつききつつき

(谷川俊太郎作)

うそつききつつき

きはつつかない

うそをつきつき

つきつつく

うそつききつつき

つきにつく

みがづきつくと

つきつつく